

《《《》》》
 欧州の日中関係への疑問
 来る十月下旬の天皇訪中をめぐ
 って、日本国内には何か不透明な
 オリのような沈滞が残る、その一
 方では八月二十一日の韓国交樹
 立、この九月二日の米プッシュ政
 権による台湾へのF16戦闘機大量
 売却の発表と、東アジアの国際情
 勢がこのところ急速に動いてい

正論

東京外語大教授 中嶋 嶺雄

事に動ぜず自信深める台湾

る。遍般の南シナ海南沙諸島をめぐ
 る中国とアジア諸国との角逐に
 加えて、トンキン湾のベトナム近
 海での中国の石油探査による中越
 関係の緊張や、この秋に予定され
 ている中国共産党第十四回大会
 の帰趨も、注目されねばなるま
 い。

このように東アジア情勢が流動
 化しつつあったこの八月中旬から
 九月上旬にかけて、私はたまたま

両論に沸くフランスへは、文部省
 科学研究費による「現代中国の政
 治的・社会的変動に関する日仏共

国民投票によって、ヨーロッパ
 統合への異議を表示したデンマー
 クでは、この八月下旬に、最北端
 の都市アールボーグで国際ヨーロ
 ッパ思想学会(I.S.S.E.)主催に



た留学生交流のあり方やアジア太
 平洋地域の国際情勢を論ずるセッ
 ションも含まれていて、私にとっ
 ては学ぶところの多い会議であっ
 った。

《《《》》》
 政経安定で台湾にゆとり
 この間、私は台湾の最高指導層
 の方々とも膝を交えて語り合っ
 とができたが、日本ではあれほど
 大問題になった中韓国交樹
 立と韓台断交に関して、台
 湾側はきわめて冷静であ
 り、いささかの動揺も感じ
 られなかった。それは、今
 回の事態が台湾側にとって
 すでに十分に織り込み済み
 であったからでもあろう
 が、むしろつねに中韓国交
 というカードをちらつかせ
 て、たとえば台湾にあり余
 っている自動車や果物など
 の輸入を韓国側が追った
 り、二国間の外交上の諸問
 題についても無理難題を強
 いてくる韓国に台湾自身が
 このところ手を焼いていた
 からにほかならない。台湾
 は周知のようにこの六月末
 の外貨準備高は八百六十八
 億と世界一、一人当たり

「同研究」(一九九二〜九五)の
 ための出張であったが、フランス
 で、私がまず出合った問題は、な
 ぜ今、日本は天皇訪中を決定した
 のかというフランスの知識人や言
 論界の根強い懐疑であった。私が

よる「ヨーロッパ統合とヨーロッ
 パの心」と題した大がかりな国際
 会議が開かれていた。私はそのな
 かの「ヨーロッパと中国」という
 パネルでの報告を依頼されたのだ
 が、ここでも問題になったのは、

改革・開放を唱える
 中国が他方では人権
 を抑圧し、このとこ
 ろ著しく軍事化と対
 外膨張を進めている
 ことへの疑念と、そ
 のような中国への日
 本の加担という点で
 あった。

右のような体験の
 のちに、私はこの九
 月初旬、台北に滞在
 していた。それは日
 本の本田財団と台湾
 の亜太科学技術協会
 主催による「アジア
 太平洋地域の発展と
 科学技術」二十一世
 紀への課題」と題す
 る会議での総括・提
 言と十一月上旬に京

野でも著しい進展を
 示している台湾側と
 日本側の報告がそれ
 ぞれに噛み合い、ま
 た留學生交流のあり方やアジア太
 平洋地域の国際情勢を論ずるセッ
 ションも含まれていて、私にとっ
 ては学ぶところの多い会議であっ
 った。

《《《》》》
 期待される日本の役割
 こうした動きのなかで、いまこ
 そ日本はアジア情勢の深部の潮流
 を見定め、西側諸国の一員として
 の立場をより一層明確にして、開
 かれたアジアの秩序形成に当たっ
 てほしいというのが台湾側の強い
 要望でもあった。

(なかじま・みねお)